



わたしたち 卒業します



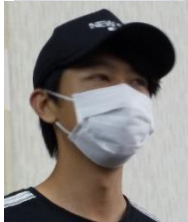
王 文霞

オリーブ・パーティで皆さんの国のおいしい料理、高島今津での「そば打ち」体験、ありがとうございました。オリーブを通じて日常生活での話し言葉の日本語を学ぶことができました。日本文化や生活習慣なども知ることができました。



石 彦芳

皆と一緒にオリーブで日本語を勉強するのはとてもうれしかったです。今年はコロナウイルスのせいで私は旅行したいところに行けません。残念です。皆も私と同じことを感じていると思います。私はオリーブの先生に大変お世話になりました。



曾 琦

田中先生にわかりやすく解説していただいたおかげで、日本語の使い方について理解を深めることができ、自分が考えた思いがうまく伝えられるようになりました。とてもよかったです。今後もオリーブで学んだことを生かして文法が上手に使えるように日々勉強し頑張りたいと思います。



中川先生のへんてこ日本語

三密

120



新型コロナウイルスの感染予防策として、「三密」(密閉、密集、密接)を避けるよう、耳にタコができるほど聞いてきた。大切な規律として、かなり浸透しているようだ。

ところで密教でも「三密」が戒律として説かれている。「心、体、言葉」の三つで、こちらは避けるのではなく、体内に取り入れるべき作法として教えられる。例えば、感謝の気持ちを「心と体と言葉」で伝える。なかなか容易なことではない。怒りの気持ちを表すのは容易であっても、感謝や詫びの気持ちをどう表現するか、どんなに美辞麗句を並べたり、平身低頭詫びを述べたりしても、十分な意を尽くせぬことが多い。

近頃のコンビニ、ファミレスなどの、いわゆるマニュアル語には、何かしら欠落している。口先だけの技術で終わってはいないだろうか。ただ頭を下げればいい、敬語を使えばいいという問題ではなく、自分の「心と体と言葉」で伝えてほしいものである。

以前韓国へ出かけた際、レストランのおねえさんが料理を差し出す折、敬語を使うのはもちろんのこと、真心込めて配膳してくれたことにいたく感激した。

ちょうど一年前に中国の学会に出かけた時、大学で指導をしている学生の両親が特急電車で2時間かけて会いに来てくれた。言葉(中国語)でもって感謝の意を伝えてくるが、残念ながら私にはうまく聞き取れない。しかし意図するところは十二分に汲み取れる。言葉で伝えるとはそういうことではないか。たとえば言葉は違えども、心と体で伝えれば、意味は伝わる。

「心と体と言葉」に「満つ」生活を実現したいものだ。

京都外国語大学 日本語学科教授 中川良雄

パキスタン・インド料理「ナシルのカレー」

仕事の打ち合わせを兼ねて、5人で夕食を共にしました。

場所は竜王の「ナシルのカレー」というパキスタンカレーのお店。ダイハツ竜王工場の近くです。スタッフは、ネパール人のコックさんと、接客担当の店長さんの二人。店長さんがナシルさん？ではなくて、ナシルさんの弟の「シャヒッド」さんでした。(以下会話ではシと表記)最初、日本語のたどたどしいコックさんに「インド料理とパキスタン料理の違いは？」と聞いて「うーん、同じね。」とそっけなく答えられてどうしようと思いましたが、シャヒッドさんはいっぱい話をしてくれました。



で、まずは注文。「マトンカレーを辛口で」、シ「辛口？大丈夫？辛いよー」、カレー専門店の中辛はどれくらいの辛さか？と悩みながら、結局中辛で3種のカレーを注文しました。ドリンクは、みなさんラッシーかマンゴラッシーを選択。

キーマカレー
日本の中辛より少し辛さが抑えてある感じ。肉がたっぷり入って肉汁とスパイスが良い味出していました。

意外にチキンカレーはあまり辛くない。う〜ん、唐辛子かけよ。

どのメニューにも、サラダとドリンクとナン(食べ放題)が付きます。

マトンカレーは十分辛口。ゴロツとお肉が入ってます。

ナシルさんのカレー店はもともと貴生川にあったようですが、この竜王に移転し、信楽店もできました。でも、コロナの影響で信楽店は現在閉店中。やっぱり今の時期、レストランはたいへんですよね。

(友だち)「パキスタン料理は、味付けはインドやネパールとそれほど変わらないけど、ハラールになっているところが特徴ですよ？」(おお、いい質問だ)、シ「そう。竜王のダイハツにはインドネシアの人がたくさんいるから、みんなハラールレストランに食べに来てくれるね。」ハラール食材はイスラム教の戒律で食べることが許されている食べ物のことです。パキスタンはインドネシアに次ぐ世界第2のイスラム教徒人口の国です。もともと中古車の輸出をしていたナシルさんが、このカレー店を始めたとのこと。

シ「滋賀には25人のパキスタン人がいる。三重には80人。東京、名古屋にはたくさんいる。」そういえば東京の新大久保には「イスラム横丁」なる一角があって、ハラールフードショップが多くて人気です。ナシルさんの店も東京からハラール食材を購入しているとのこと。

シ「(私は)三重の津の教会に行ってる。あと、南彦根や彦根にもあるよ。お祈りの時に手や顔や頭を何度も洗うから、パキスタンはコロナはゼロね。」そうか、インドの近くだけど、今のところ感染者はいないんですね。

そのうち、メンバーの何人かはパソコンを取り出して、編集の仕事を始めました(えらい!)。店長さんは私たちをほったらかして自分の仕事をしてよいのに、チャイを飲みながら私たちを眺めています。「こんなところで仕事するんや、日本人は。」とか思ってるのかな。

待っている間、話はインドのスイーツに。「インドのスイーツはすごく甘いそうですね。ほら、丸いお団子みたいなのをあまーいシロップに漬けたのとか。」シ「それ、うちにあるよ。」といきなり出てきました! みんな、恐る恐る口に入れます。「うん、おいしい。けど、あ、甘い…」「ほんのりミルクの味も。いや、バターかな? パウンドケーキをぎゅうっと丸く固めて、甘いシロップに投入した感じ。これがあの、世界一甘いという「クラブジャムン」かー。ここで出会うとは思ってもなかったなあ。しかし考えたら日本の羊羹も甘い。非常食で山に持って行くけど、あの甘さが登山で疲れた体に効くのよね。ああ、白馬岳山頂でジャムンを食べたい!(もはや、甘さで意識混濁)



まだまだ続く編集作業。チャイを追加注文しました。ネパールのチャイよりスパイスは抑え気味ですが、紅茶の風味が生きています。

店内にはずっと私たちだけ。店長さんはずっと気さくに話をしてくれます。「スンニ派? シーア派?」「インドとパキスタンの関係」などと踏み込んだことについても気軽に話してくれました。日本語教室でなくて、たぶん生活の中で覚えた日本語で分かりやすく話してくれる会話力にも感心。最近、日本のお店では、マニュアル通りの言葉以外の「無駄な」会話は話さないという効率化した接客になっているような、というより、みんな会話を楽しむ人間力がなくなっているのかも? などと考えさせられた食事会でした。



フレンドリーな店長
シャヒッドさん

ナシルさんのお店がコロナを乗り越えてずっと続きますように。そのためにもまた食べに行きたいけど、なにしろ遠い。車をお持ちの方はぜひ行ってみてください! これだけ食べて飲んで、お支払いは一人1500円。お得です!



後藤美子さんが神奈川県に引っ越すことになりました。受付スタッフから、教えるスタッフ、オリーブ通信係など、いろいろお世話になりました。寂しいですが、新たな土地でもご活躍をお祈りします。

旅立ちます



オリーブには 20 周年の時に入会しました。

恩地さんから 20 周年パーティーに誘っていただいたことがきっかけです。

入会後は受付係をしていました。生徒さんの顔と名前がなかなか覚えられなくて大変でしたが、みんながいきいきと楽しそうに勉強している姿を見ると嬉しくなりました。オリーブはいつも活気があって、来ると元気をもらえる場所でした。

生徒さんや日本人の先生たちとおもしろい話がたくさんできました。楽しかった記憶を思い出すと、どれもこれも誰かとおしゃべりしている風景です。

最後の 1 年間は教える係をしていました。やさしい日本語にも慣れて、教え方の講座にも行ったりしたので実際に生徒さんに教えてみたいと思ったからです。生徒さんの『分かった!』という嬉しそうな顔や班のみんなでおもしろいおしゃべりをした時の笑顔が印象に残っています。

『人と話すことが楽しい』オリーブは本当に貴重な場所だと思います。これからも、たくさんの方の大切な場所であり続けてください。遠くからですが、応援しています。



先月の活動(8月)



今月の活動予定 (9月)

日本語教室 8/1(M), 8, 22, 29 (4回)
 8月1日(土) KIFA オンライン日本語ボランティア講座
 (恩地・古川・福井)
 8月17日(月) まちセン研修部会 (内田千)

日本語教室 9/5(M), 12, 26 (3回)
 9月5日 ミーティング
 立命大「Sustainable Week 2020」につ
 いての説明
 9月8日 まちセン全体会 (内田千)

- 日本語教室の(M)は定例ミーティング
- ()内は参加者、または 参加予定者。敬称略



参加人数(8月)

	8/1	8/8	8/22	8/29
生徒	20人	21人	21人	10人
先生	21人	15人	17人	19人



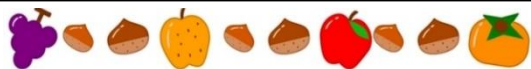
新型コロナウイルス感染対策チラシ 24 か国以上

京都大学で社会医療の研究に携わる岡田さん他がボラン
 ティアで製作なさいました。

対応言語他、詳細は、下記のURLへ。

<https://o202n006.wixsite.com/flyer>

なお、下記はその中の「やさしい日本語バージョン」です。



会員の動き(8月)

〈入会〉なし

〈休会〉高田 充清 さん 田中 一美 さん

〈退会〉後藤 美子 さん

草津市国際交流協会

オンライン日本語ボランティア講座(参加報告)

2020 8・01(土)

講師:浅井 華代 氏(彦根在住 日本語講師)

日本語教育の基礎についての講義に加えて、ZOOM を使った授業のやり方について基本的な説明をしていただきました。ホワイトボードの使いかた、画面共有のしかた、オマケで、画面の中の顔がきれいに見えるライトの当て方など。

印象に残ったのは、「オンラインでの授業の集中力は15分まで」、ということ。15分ごとに小休止を入れて、体操やゲーム、歌などを入れて気分転換を図る方法を紹介していただきました。たしかに、自分が講義に参加してみると座っているだけで肩が凝ることを実感しました。(フクイ)

京都府国際センター

災害時外国人サポーター研修制度(参加報告)

2020 9・5(土)

- 1)ベトナム人と暮らし働くためのヒント
- 2)パキスタンのコミュニティ防災の取組みと日本での生活経験を通して(日本語通訳付き)
- 3)京都の災害時外国人支援について

これもオンライン講義で参加しました。地震、洪水など、日本と同じような災害が多いパキスタンは、災害に備えて、地域の防災ネットワークが発達しているとのこと。それでも女性の救急隊員はいないそうです。(女性看護士がいる。)日本在住の講師が特に強調されていたのは、「日本の災害時緊急メッセージは長すぎる!」ということ。う～ん、日本語というより、日本人の特徴でしょうか?(フクイ)

編集後記: オリーブの日本語教室がようやく再開しましたが、第2波にそなえ、zoomの習得に追われた夏でした。が、あまり効果なし(泣)。それでも、いろいろ参加するうちに、zoomの可能性について目を開かれた気がします。特に、立命大の「Sustainable Week 2020」の構想にはビックリ! 講演会、ライブ、模擬店と、過密の典型的学園祭を、オンラインで乗り切ろうというのですから。オリーブのイベントも何か工夫できないかな? やっぱ無理かな?(フクイ)